

605回新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

テレビ番組
「長岡花火のキセキ 白菊とフェニックス」



平成 27 年 3 月 26 日

BSn新潟放送

第605回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成27年3月26日（木）11：00～

2. 開催場所 新潟放送本社6階会議室

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	副委員長	相羽利子
委員	佐々木広介	委員	正道かほる
委員	古賀豊	委員	佐藤元
委員	佐藤明	委員	細田康

○委員側欠席者

委員	高井盛雄	委員	小島良子
----	------	----	------

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
常務・編成局長	水田義雄	営業局長	斎藤和利
報道制作局長	五十嵐幹史	ラジオセンター長	鍵富徹
〈説明員〉		報道制作局情報センター	テレビ制作担当
		番組ディレクター	山口牧恵

○事務局

事務局長	小原弘志	(社長室長)
事務局員	増山由美子	(考查広報部長)

4. 議題

・審議事項

テレビ番組

「長岡花火のキセキ 白菊とフェニックス」

放送日時 2015年1月3日（土）午後3:00～3:55（53分番組）

5. 議事の概要

～番組審議委員の主な意見～

- 60周年記念番組等で培われたB S Nのドキュメンタリー制作能力が発揮されていた。嘉瀬さんとロシアという視点で制作した切り口が良かった。
- 花火がとてもきれいに撮れていて、最後の「白菊」は素晴らしい印象に残った。ただ「復興」と「鎮魂」という2つのテーマは一つにはならない気がしたが？
- 戦後70年を意識した番組。B S Nならではの資料映像も豊富に使われ、長岡の花火を正面から捉えたとても良い番組だった。
- ロシアの人々のインタビューを聞き、花火を通じて繋がっていることに感動した。
- 花火には悲しさや嬉しさなど人の感情を素直にさせる力があり、元気づける力を持っていると、改めて花火の素晴らしいを感じた。
- 1月3日の放送でテーマは長岡花火、中越地方の人たちは見たかもしれないが、どれくらいの人が見たのか。これだけの番組なのにもったいない。
- 山崎まゆみさんの柔らかな感性が、嘉瀬さんの思い出をうまく引き出していた。
- 「白菊」の「鎮魂」の意味は知っていたが、そこにどれほどの思いが込められているのかシベリア抑留の取材ではっきり知ることができた。
- 嘉瀬さんを縦糸・芯に据えて、横糸に空襲や中越地震に関わった方を絡め、お正月にふさわしいスケールの大きな番組になっていた。
- 田中さんの「シベリアに抑留された人々が、なぜ戦争が終わったのに死ななければならなかったのか」という言葉が、深く心に響いた。
- お正月より、終戦記念日や花火の時期に合わせて放送した方がよかったです。是非、夏頃に再放送してほしい。
- 「なぜ花火で泣けるのか」を大きなテーマに、伝説の花火師・嘉瀬さんを中心とした構成は見事。重厚感のある番組だった。

～山口ディレクターより～

- 貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。
- 山崎まゆみさんの本に感動し、嘉瀬さんのストーリーを描こうと思った。現在の長岡花火に欠かせないフェニックスと合わせ「鎮魂」と「復興」をテーマに制作を決めた。「鎮魂」と「復興」が相容れないのでは？というご意見があったが、長岡花火は明治時代に始まり戦争で中断、終戦の翌年に「復興」の意味を込めて再開したもの。中越地震の「復興」だけではない背景があるので、この2つをテーマとした。
 - ロシアでのインタビューで、あれほど多くの人たちが嘉瀬さんと嘉瀬さんの花火を覚えていることに驚いた。それほど人の心を魅了するものだったのである。私自身、この番組を通じて長岡花火の本当の意味を知った。同じ思いで見てくださった方がいたとしたらとても嬉しい。